

## 先輩ユーザーに聞いてみよう！ in 第5回 Z-GIS・ザルビオ WEB ミーティング



動画のアーカイブはこちら

令和4年1月28日にWEBミーティングを開催しました。

今回は2組の先輩ユーザーからお話頂きましたので、その内容をお伝えします。

### ①Z-GISの先輩ユーザー



林農産 代表 林浩陽 様(左)、林夢太 様(右)

#### 林農産について

林農産は石川県野々市市にある農業法人です。youtube 上でも「農チューバー」として活躍しています。林農産では、600枚の圃場管理を行っており、水稻品種や栽培方法を分けると8通りのパターンがあります。

#### Z-GISを使い始めたきっかけ

以前は白地図に色鉛筆で色塗りし、そこに必要な情報を書き込んでいました。しかし、「これではいかん」と考え、営農管理システムを探す中でZ-GISと出会いました。

#### Z-GISをどう使っているか

主な使用目的は、作業タイミングが重要でこまめなスケジュール管理が求められる水管理や除草剤散布の管理です。従業員から圃場ごとの申し送り事項を聞き取り、共用のホワイトボードのメモを見て夢太さんが記録しています。他にも地主情報や地代の精算にも使用しています。事業承継では、先代から知識や経験を引き継ぎ、得意分野を活かしてさらに発展させていくことが重要になりますが、夢太さんにはZ-GISを使いこなせる強みがあります。

### ②ザルビオの先輩ユーザー



上関ふあーむ 代表理事 伊藤宗吉 様(右)  
JAにいがた岩船 TAC 山田薫 様(左)

#### 上関ふあーむについて

新潟県岩船にて水稻25ha、そば10haを栽培しています。ドローン散布受託160haの実績もあり、JAと協力してドローン追肥にも取り組んでいます。

#### ザルビオを使い始めたきっかけ

上関ふあーむはリモートセンシング(リモセン)をきっかけにドローンとザルビオを導入しました。JAにおいても昨年度水稻の生育調査の効率化と営農指導の高度化を目的とし、リモセン用ドローンDJI P4Mを導入し、ザルビオと併用しました。

#### ザルビオをどう使っているか

今年の結果、ザルビオでも十分に植生の確認ができましたが、リモセンデータとSPAD(葉色)との関係性を見出すことが課題として残りました。また、JAでは多様な品種の防除適期の把握のためにザルビオの生育予測を使いたいと考えています。今年、コシヒカリは精度良かったのですが、多収品種は誤差があり、今後のAI予測精度向上に期待しています。